

特集 // 平成11年度 ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

1. ブロックの運営動向

平成12年度のブロック運営に関して、以下のことが協議・報告された。(於：平成11年度ブロック研究会)

- (1) 北崎リーダーより、新規事業計画など理事会関係の報告がなされた。
- (2) 2000年全国大会について、準備委員会より進捗状況が報告された。
- (3) 研究活動の活性化をはかるため、共同(奨励)研究助成金に関する内規(案)が提出され、承認された。
- (4) 運営委員の一部交代について協議された。新運営委員に佐々木邦子氏が決定した。
- (5) ブロック活動の活性化のため、外部に対しての学会の存在および活動内容の認知促進と新会員の積極的勧誘の協力が呼びかけられた。

2. ブロック研究会の活動報告

平成11年度ブロック研究会は、平成12年3月25日(土)、かでの2・7を会場に19名(会員18名、非会員1名)が参加して開催された。研究会の内容は以下のとおりである。

- (1) 講演：「観光産業における事務職の採用と人材育成」
加森観光株式会社総務部次長安達文幸氏
- (2) 研究報告(3件)：
 - ① 「札幌および近郊の企業における秘書職の変遷」—調査研究計画の中間報告— 官尾昌子(函館大谷女子短期大学)、佐々木邦子(北海道女子大学短期大学部)、椿 明美(國學院短期大学)、和田佳子(北海道武蔵女子短期大学)
 - ② 「学生の言葉づかいへの指導—学生の敬語に関する意識について」 加藤由紀子(北海道文教短期大学)
 - ③ 「自分を省みるマインドと社会参画意欲を形成する—演習授業での試み」 北崎 寛(札幌国際大学短期大学部)



- (1)の安達氏の講演では、事務職、とりわけ女性従業員に求める能力のレベルアップがはかられている実態や、最近の新入社員研修の動向などについて事例を交えながら語られた。採用担当者の生の声から、短大・大学教育でなすべきことが数多く示唆された。
- (2)①では、近年の北海道における秘書職の実態把握を行うための調査計画について中間報告された。②では、短大生の敬語の使用についての意識調査結果が披露され、学生たちが、中学・高校時代を通じて学校でも家庭でも敬語に関する教育を受ける機会がほとんどないことや、相手との利害の有無を考えながら敬語を使用している状況が報告された。③では、「自己理解シート」の活用と担当教員のコメント添付により、学生・教員が双方向で展開する「オフィススタディーズ演習」での試みが紹介された。

北海道ブロックから

第19回全国大会は9月7～8日、札幌国際大学を会場にして開催されます。北海道ブロックとしても、会員の皆様にご満足いただける大会となるよう準備をすすめているところです。初秋の北海道へ、多数の皆様のお越しをお待ち申しあげております。(和田佳子記)



関東・東北ブロック

1. ブロックの運営動向

森脇道子会長の後を引き継ぎ、佐藤啓子運営委員がブロックリーダーとなり、新たな1年が始まった。これを機に以下のことが、運営委員会で決定された。

- (1) 2回の会報は「お知らせ」として年1回の発行とする。
- (2) 従来、会報に研究会の発表内容を掲載していたが、今年

度からは、研究会の発表内容を知りたい人は事務局へ申し込み(送料は自己負担)、事務局から研究会のレジュメを送付する。

- (3) ビジネス実務学会費を2,000円値上げしたので、従来のブロック研究会費1,500円は徴収しない。

2. 研究会活動

第27回ブロック研究会は、平成12年2月18日(金)高崎商科短期大学の当番校により東商スカイホールにビジターを含む85人の会員が参加して開催された。統一テーマ「21世紀を展望するビジネス実務教育」を掲げ、全国大会を前に会員の意識を高める場とした。まず、武田秀子実行委員長の挨拶、スケジュール説明から始まり、99年度共同研究5チームからの中間報告があり、引き続き人材開発研究所長田川百彦氏による「変革する職場環境とビジネス実務」の講演。総会ではブロックリーダーから日本ビジネス実務学会常任理事会での決定事項、ブロック研究会運営委員会での決定事項についての報告があり、総会の最後には、ながらく関東・東北ブロック研究会に貢献された森脇会長へブロックリーダーから深紅のバラの花と図書券がプレゼントされ、2人の出会いのエピソードが語られたが、それはまさにビジネス実務学会の歴史の一コマを聞くようであった。午後は下記の研究発表が行われた。(①②は98年度の共同研究③④は個人研究)

- ①「ビジネスのためのプレゼンテーション学」(東京家政学院大学、小野塚久枝)
- ②「ホスピタリティの実践研究」(嘉悦女子短期大学、古閑博美)
- ③「企業における研修体系作成とその進め方」(三井海上能力開発センター、井上良之助)
- ④「就業状況の変化と実務教育の方向性」(高崎商科短期大

学、大宮智江)

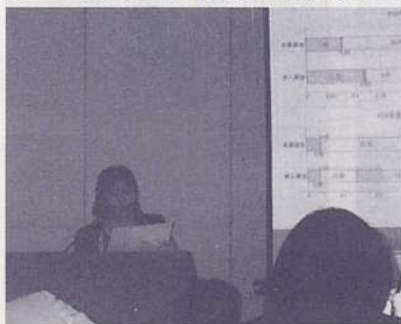
コーヒープレイクの後のワークショップは「変化する実務教育の新しい方向を探る」というテーマのもと、以下の3人のパネリストから現場の報告を聞き、その後、テーマをめぐってのグループディスカッションが行われた。

- ・水野幸子(日新製鋼株式会社ステンレス事業本部)
- ・原田純子(森永乳業株式会社情報システム部)
- ・長谷川玉枝(住友スリーエム株式会社人事部秘書室)

3. 共同研究活動

共同研究推進小委員会では、池内健治リーダー、大島武事務局長を中心に綿密な活動を展開している。募集要項、共同研究の進め方、共同研究の流れ、これまでの共同研究テーマを冊子にまとめブロック研究会員全員に配付し、共同研究テーマの募集を呼びかけている。2月の研究会では次の5つのグループが中間報告を行った。

- ①「高等教育期間における実務教育の改善の方向」 斉藤勇二
- ②「群馬県内企業におけるコラボレーション・情報共有の現状と課題」 山口憲二
- ③「東北地方におけるビジネス・インターンシップ制度の課題」 植竹由実子
- ④「ホスピタリティ実務教育の展開」 畑中国明
- ⑤「ビジネス情報学の構想」 小池澄男 (箱崎雅子記)



中部〈東海・北陸〉ブロック

「ブロック運営委員会」の活動

当ブロック研究会は、吉田寛治先生より島名がリーダーを引き継ぎ、運営委員会の交替を行い2000年を迎えることとなった。運営委員会は、ブロックの活性化のため研究会の開催および共同研究による助成研究を推進してきたが、今後とも積極的な活動をはかりたい。

平成10年度の研究会は、名古屋市の「安保ホール」で平成12年1月6、7日に開催し、研究発表10本という充実したものであった。

さて、平成11年度(平成11年5月1日~12年4月31日)の運営委員会の活動は、以下の通りである。

【I】平成11年6月5日(火)(於:広島)

1. 審議事項

1) 平成11・12年度の中中部ブロック運営委員選出について

2. 報告事項

- 1) 中部ブロックリーダーの交代について
- 2) 平成11年度中部ブロック研究会について

3. その他

(1) 「JACB教授法研究助成制度」について

【II】平成12年1月6日(於:名古屋)

1. 審議事項

- 1) 平成11年度中部ブロック研究会について
- 2) 平成12年度中部ブロック研究会開催の時期・場所等について
- 3) 中部ブロック研究会の助成研究について
- 4) 運営委員の追加承認について
- 5) 次回の運営委員会の開催について

2. 報告事項

- (1) JACB教授法研究助成について
- (2) 2000年の全国大会について
- (3) ブロック『会報』14号の編集・発行業務について (島名正英記)

「ブロック研究会」の開催

本年度(平成11年度)は、平成12年1月6日(木)・7日(金)、名古屋駅前の「安保ホール」で開催された。新年早々にもかかわらず42名もの会員の参加があった。今回は、新会員が3名、さらに遠路を厭わず他ブロック研究会よりのご参加もあり有意義なものとなった。

研究会は、新ブロックリーダー島名正英先生の開催挨拶に



続いて総会が行われ、運営委員会の報告や学会の動向、次期ブロック研究会の会期・場所などの議案が満場一致で承認された。また長きにわたりリーダーとして当ブロックの発展のためにご尽力、ご指導くださった吉田寛治先生への感謝の念が表された。

研究発表は、第1日目は鎌田和江先生、鈴木和也先生、松下紘子先生、大月英明先生、第二日目は島本みどり先生、藤田達雄先生、北渦克輔先生、吉田由紀子先生のとくみな司会に導かれ、次の10件の研究発表があった。

- ① 日本ビジネス実務学会 (JACB) 助成研究「問題解決能力開発のための教授法」(中間報告) 佐々木怜子先生・川口直子先生・小川美樹先生・清水たま子先生
- ② ブロック助成研究「現代ビジネス環境における実態調査」(報告) 田口智子先生・明瀬純子先生・一柳達幸先生・真弓徳光先生
- ③ 「オフィスにおける異文化コミュニケーション (II)」(報告) 荒川恵美子先生・原川かず江先生・水谷啓子先生
- ④ 「社会体験講座(学習・実習)のポイント」真弓徳光先生
- ⑤ 「インターンシップに関する研究—東海四県を中心として—」戸田昭直先生・中村健壽・井上(安田)英理佳先生・西川三恵子先生・福岡欣治先生・加藤宏美先生

- ⑥ 「秘書業務の効率化に関する諸要因の研究 (II) — 国語表現の分析 —」平田祐子先生・中村健壽・内山伊知郎先生・井上(安田)英理佳先生・柴山正先生・一柳達幸先生・石川雅健先生・國田千恵子先生・余語真夫先生・福岡欣治先生・加藤宏美先生

- ⑦ 「言葉づかいに関する学生の意識調査 ビジネス実務教育の視点で」権田恵子先生

- ⑧ ストローク・トレーニングによる自己表現力向上の試案について」岡野絹枝先生

- ⑨ 「国文科の学生に教えるビジネス実務」織田善幌先生

- ⑩ 「ビジネス実務教育における導入教育の課題」戸田昭直先生

これらの発表は、新しい教育方法の方向性を模索するもの、実態調査報告あるいは教育現場の実践報告などと幅広い内容で、専門領域が複雑化・多様化している今日の学問研究推進のあり方・方法の一端を垣間見る思いで大きな刺激を受けた。

なお、第一日目には恒例の懇親会が催され、相互の旧交を温めたり、教育・研究の情報の交換、また研究発表者との質疑応答などが続いた。とくに川口直子先生のエンタテナーふりが発揮された名司会で、エネルギーが会場に満ち溢れていた。(中村健壽記)

近畿ブロック

第28回ブロック研究会

第28回ブロック研究会は1999年3月21日(日)、大阪国際交流センターで37名の参加を得て開催されました。

〈共同研究発表〉では、①「オフィスワークとエコロジー活動—ISO 14001の認証を受けた企業の実態—」と題し、笠原多恵子先生(京都短大)・油谷純子先生(大阪国際女子短大)・中川伸子先生(神戸女子大瀬戸短大)により、ISO 14001の認証を受けた3社についてのエコロジー活動の報告をいただきました。②「21世紀のビジネス行動指針とビジネスに関する高等教育の研究」は、林雄太郎先生(大阪キリスト教短大)・堀正久先生(前四国大学)・浮田由子先生(大阪キリスト教短大)・河原和秀先生(樟蔭女子短大)により、変化する企業環境に対して高等教育の課題を検討していただきました。

〈個人研究発表〉では①「ビジネス実務と情報リテラシー—エンドユーザ主役の時代に求められる情報リテラシー—」と題し、杉田乾伍先生(姫路日ノ本短大)が短大の教授経験を踏まえて、情報の収集・活用・伝達の重要性を指摘されました。更に、②「就職活動におけるビジネス実務活動の意義—羽衣学園短期大学のアンケート調査をもとに—」と題し、田中雅子先生(羽衣学園短大)が企業のニーズと短大の実務教育の有効性について検証されました。

〈分科会〉では、「ビジネス実務教育の方法」について2班に分かれ、実務士と秘書士・実務教育・インターンシップ等について教育現場の意見や提言等の交換をしました。

第29回ブロック研究会

第29回ブロック研究会は1999年8月28日(土)、兵庫県立女性センターで28名の参加を得て、開催されました。

〈総会〉は福永弘之ブロックリーダー(姫路工大)より、唐崎齊先生(滋賀女子短大)の入院により福永先生が事務取り扱いとなった件、決算報告、共同研究[笠原多恵子先生(京都短大)代表のグループと林雄太郎先生(大阪キリスト教短大)代表のグループは継続、新規は大窪久代先生(近畿大短大)・中村美美子先生(プール学院短大)・黒田廣美先生(聖和短大)の「ビジネス実務教育におけるアウトプレースメント」および雑賀憲彦先生(大谷女子短大)・田中雅子先生(羽衣学園短大)の「マーケットバリューに有効な評価となりうるか」]の件、および第19回全国大会の予告(9月7・8日)の報告がありました。続いて、兵庫県立女性センター副所長の永井裕子氏より女性センターの活動紹介を受けました。講演は「改正男女雇用機会均等法と今後の女性労働」と題し、兵庫県女性少年室長の伊藤由紀子氏より均等法の強化と女性の活用について有益な意見をいただきました。

〈個人研究発表〉は、①「キリスト教会の経営管理—経営戦略としてのミッション—(ビジネス学研究第3報)」と題し、林雄太郎先生(大阪キリスト教短大) ミッションスクールの経営について提言されました。次に②「経済白書に見る戦後日本経済と展望」と題し、堀正久先生(前四国大)が白書の有効活用を提示されました。そして③「秘書ネットワーク—E-mail&ホームページを媒介として—」と題し、安田礼子先生(四天王寺国際仏教大短大)が秘書による秘書のネットワークの重要性を指摘されました。(河原和英記)



中国・四国ブロック

1999年度の主な活動は次のとおりです。

- 1 第18回全国大会開催の担当準備委員会を立ち上げ、6月5、6日に開催。
場所：安田女子短期大学

- 2 新運営委員と事務局移転

総会での新ブロックリーダー、サブリーダーの承認に伴い事務局を移転した。
事務局：安田女子短期大学秘書科

〒731-0153 広島市安佐南区安東 6-13-1
T/F: 082-878-9184

事務局担当責任者: 吉田 行宏 (安田女子短期大学)

- 3 第16回中国・四国ブロック研究会の開催
担当校: 松山東雲短期大学 (責任者: 桐木陽子)
開催日: 平成11年10月16日(土)、17日(日)
開催場所: 松山 スカイホテル
参加者: 35名
研究発表: 13件
- 4 第6回中国・四国ブロック総会 (平成11年10月16日(土))
〈議題1〉平成10年度事業報告
〈議題2〉中国・四国ブロック運営委員の選出について
学会の規定をもとに旧運営委員会にて推薦された案について説明され、満場一致でかけつされた。各運営委員の任期は2年となる。
〈議題3〉平成11年度事業計画
・ブロック選出理事者、事務局打合せ会
開催日: 平成11年8月30日(月)
開催場所: 広島市中区
・中国・四国ブロック研究会運営委員会
開催日: 平成11年10月16日(土)
開催場所: スカイホテル(松山市)
・第6回中国・四国ブロック総会
開催日: 平成11年10月16日(土)
開催場所: 松山スカイホテル(松山市)
・第16回中四国ブロック研究会
開催日: 平成11年10月16日(土)・17日(日)
開催場所: 松山スカイホテル 松山市三番町8-9-1
・中国・四国ブロック研究会運営委員会
開催日: 平成11年10月17日(日)
開催場所: スカイホテル(松山市)

- ・活動予定
運営委員会、会報発行、共同研究の立ち上げ
17回研究会の準備(岡山地区担当)
- 5 第13号中国・四国ブロック会報の発行
発行日: 平成12年3月1日
発行部数: 220部
- 6 その他
運営委員会は、次のように役割の分掌化を図ることとした。共同研究推進にかんしては、ブロック会報で応募を募った。
- 企画推進:
① ブロック研究会運営上の推進案の企画案検討
・会員個人の研究推進、複合領域の共同研究推進
・産業界からの会員募集企画・交流策の検討
② ブロック研究会研究活動の促進策の企画案検討
・ビジネス実務理論・実務教育のあり方の検討
③ その他、関連事項の検討
・ホームページの開設にあたりレイアウト企画案の作成
・ブロック研究助成の募集内容の検討
- 情報・広報:
① ブロック会報の発行、立案・編集作業
② 学会・研究会の広報活動(産業界への募集活動の推進)
③ ホームページの開設
- 共同研究推進
① 共同研究のメンバー募集および研究体制の確定の検討
・全国大学・短期大学実務教育協会委託研究助成による「ビジネス・インターンシップの教材共同製作」研究の実現
なお、学会会計年度の変更に伴い、ブロック研究会会計年度及び活動年度も変更する。従って、1999年度2回目の運営委員会は、必要セクションのみ集まり、4月中旬に開催の予定である。(川瀬啓子記)

九州・沖縄ブロック

1. ブロックの運営動向

平成11年度の運営委員会において、第27回、第28回ブロック研究会の開催場所、日時、発表者等を決定し、またブロック会報の編集・発行を行った。
また、平成11年6月の全国大会総会で、ブロックリーダーが、福岡女子短期大学の坂本一登先生に決定した。この総会を受けて、ブロック運営委員と監事を変更した。

2. 研究会活動

—第27回研究会—

期日: 平成11年10月2日(土)
場所: 別府ホテル清風(別府市北浜)
出席者: 15名

研究発表

- 「ベンチャー企業のマネジメント戦略」
発表者: 増田 幸一 (九州共立大学)
座長: 藤村やよい (久留米信愛女学院短期大学)
- 「沖縄県におけるフリー・トレード・ゾーン構想の研究」
発表者: 大城 智美 (沖縄女性研究者の会)
座長: 中村美代子 (純心女子短期大学)
- 「能力主義と能力」
発表者: 杉原 英夫 (九州共立大学)
座長: 室井 廣一 (東筑紫短期大学)

講演

「地域の観光産業の活性化について」
別府料飲協同組合理事長 深瀬 俊夫
司会: 白川美知子 (中九州短期大学)

—第28回研究会—

期日: 平成12年2月19日(土)
場所: 天神幸ビル(福岡市中央区)
出席者: 22名

研究発表

- 「企業経営における「未来学」に関する一考察」
発表者: 北原 康司 (佐賀女子短期大学)
座長: 室井 廣一 (東筑紫短期大学)
- 「コミュニケーションリテラシーについての一考察」
発表者: 松原 弘美 (ヒューマンデザイン研究所)
座長: 中村美代子 (純心女子短期大学)
- 「情報機器利用による課題遂行の際の今日的指導について」
発表者: 木原すみ子 (九州龍谷短期大学)
座長: 杉原 英夫 (九州共立大学)
- 「情報化の進展と新しい企業形態」

- 発表者: 光岡 延幸 (福岡女子短期大学)
座長: 井上 善海 (九州情報大学)
「敬語取得におけるLL活用の一考察」
発表者: 則松真由実 (香蘭女子短期大学)
司会: 白川美知子 (中九州短期大学)
- 「ビジネス実務の研究について」
発表者: 坂本 一登 (福岡女子短期大学)
座長: 花崎 正子 (東筑紫短期大学)
- 27回研究会では、別府という土地柄により、観光産業振興への取り組みの実情と課題、展望について、ご講演いただいた。また、28回研究会では、特に、ビジネス実務教育に関する発表が多かった。(光岡延幸記)



ブロック研究会での研究発表一覧

【北海道】

- 「学生の言葉づかいへの指導—学生の敬語に関する意識について」
加藤由紀子 (北海道文教短期大学)
- 「自分を省みるマインドと社会参画意欲を形成する—演習授業での試み」
北崎 寛 (札幌国際大学短期大学部)

【関東・東北】

- 「ビジネスのためのプレゼンテーション学」
小野塚久枝 (東京家政学院大学)
阿部 康子 (山形女子短期大学)
的場 桂子 (日米会話学院)
海老川寿美夫 (秋田経済法科大学短期大学部)
大島 武 (東京工芸大学女子短期大学部)
小川 待子 (東京経営短期大学)
古閑 博美 (嘉悦女子短期大学)
金子 章子 (文理情報短期大学)
垂石 幸与 (鶴見大学短期大学部)
田村 尚子 (東京工芸大学女子短期大学)
- 「ホスピタリティの実践研究」
古閑 博美 (嘉悦女子短期大学)
金子 章子 (文理情報短期大学)
垂石 幸与 (鶴見大学短期大学部)
田村 尚子 (東京工芸大学女子短期大学)
- 「企業における研修体系形成とその進め方」
井上良之助 (三井海上能力開発センター)
- 「就業形態の変化と実務教育の方向性」
大宮 智江 (高崎商科短期大学)

【中部 (東海・北陸)】

- 「現代ビジネス環境における実態調査」
田口 智子 (東海産業短期大学)
明瀬 純子 (浜松短期大学)
一柳 達幸 (一宮女子短期大学)
真弓 徳光 (高田短期大学)
- 「オフィスにおける異文化コミュニケーション (II)」
荒川恵美子 (國學院大學栃木短期大学)
原川かず江 (富士フェニックス短期大学)
水谷 啓子 (一宮女子短期大学)
- 「社会体験講座 (学習・実習) のポイント」
真弓 徳光 (高田短期大学)
- 「インターンシップに関する研究—東海四県を中心として—」
戸田 昭直 (浜松短期大学)
中村 健壽 (静岡県立大学短期大学部)
井上 (安田) 英理佳 (静岡県立大学短期大学部)
西川三恵子 (土佐女子短期大学)
福岡 欣治 (静岡県立大学短期大学部)
加藤 宏美 (静岡県立大学短期大学部)
- 「秘書業務の効率化に関する諸要因の研究 (II)—国語表現の分析—」
平田 祐子 (近畿大学短期大学部)
中村 健壽 (静岡県立大学短期大学部)
内山伊知郎 (同志社大学)
- 井上 (安田) 英理佳 (静岡県立大学短期大学部)
柴山 正 (名古屋女子大学短期大学部)
一柳 達幸 (一宮女子短期大学)
石川 雅健 (名古屋文化女子短期大学)
國田千恵子 (金沢学院短期大学)
余語 真夫 (同志社大学)
福岡 欣治 (静岡県立大学短期大学部)
加藤 宏美 (静岡県立大学短期大学部)
- 「言葉づかいに関する学生の意識調査—ビジネス実務教育の視点で—」
権田 恵子 (名古屋女子商科短期大学)
- 「ストローク・トレーニングによる自己表現力向上の試案について」
岡野 絹枝 (富山福祉短期大学)
- 「国文科の学生に教えるビジネス実務」
織田 善幌 (長岡短期大学)
- 「ビジネス実務教育における導入教育の課題」
戸田 昭直 (浜松短期大学)

【近畿】

- 「オフィスワークとエコロジー活動—ISO 14001 の認証を受けた企業の実際—」
笠原多恵子 (京都短期大学)
油谷 純子 (大阪国際女子短期大学)
中川 伸子 (神戸女子大瀬戸短期大学)

「21世紀のビジネス行動指針とビジネスに関する高等教育の研究」

- 林 雄太郎 (大阪キリスト教短期大学)
- 堀 正久 (前四国大学)
- 浮田 由子 (大阪キリスト教短期大学)
- 河原 和英 (樟蔭女子短期大学)
- 「ビジネス実務と情報リテラシー—エンドユーザ主役の時代に求められる情報リテラシー—」
杉田 乾伍 (姫路日ノ本短期大学)
- 「就職活動におけるビジネス実務活動の意義—羽衣学園短期大学のアンケート調査をもとに—」
田中 雅子 (羽衣短期大学)
- 「キリスト教会の経営管理—経営戦略としてのミッション—(ビジネス学研究第3報)」
林 雄太郎 (大阪キリスト教短期大学)
- 「経済白書に見る戦後日本経済と展望」
堀 正久 (前四国大学)
- 「秘書ネットワーク—E-mail&ホームページを媒介として—」
安田 礼子 (四天王寺国際仏教短期大学)

【中国・四国】

- 「就職への心構え創り」
谷 和親 (マツダ財団)
粟屋 仁美 (マツダ財団)
- 「導入教育への試み—大学と高校のアーティキュレーション—」
磯田 圭子 (安田女子短期大学)
- 「ビジネス理論研究の展開可能に関する提言—ビジネス基礎から応用への展開プロセスに向けて—」
今林 宏典 (呉大学短期大学部)
- 「ロールプレイを中心としたビジネス実務教育—短期大学での取り組み—(報告)」
石井 三恵 (広島女子短期大学)
田村 久美 (広島女子商短期大学)
- 「人事考課の心理的影響」
川瀬 啓子 (安田女子短期大学)
- 「実学教育とアントレプレナのビジネスプラン作成について—インターンシップ実施による実学教育の取り組み—」
山本 慶子 (香川短期大学)
- 「経営管理のキーワード—Business Management “key Words” A~Z」
堀 正久 (前四国大学)
- 「女性社員の雇用の実態と短大教育の展望—香川県の事業所を対象としたアンケート調査をもとに—」
山野 邦子 (高松短期大学)
佃 昌道 (高松短期大学)
藤井 順子 (高松短期大学)
- 「学生の敬語に対する学生の意識について」
渡辺 和枝 (松山東雲短期大学)
- 「大学とビジネス」
森貞 俊二 (松山東雲短期大学)
- 「次世代のボランティア—仕事とボランティアにおける楽しさの価値—」
樋口 紀子 (梅光女学院大学短期大学部)
- 「コンピュータの発達と日本のビジネスII—セブン・イレブン・ジャパンの事例研究—」
川端 淑子 (山陽学園短期大学)
- 「『ビジネス・インターンシップ』のシラバス共同研究と教材共同開発—ネットワーク上における教材の共有化と共同開発の有効性及び教授法としてのマルチメディア環境活用の可能性を探る事例研究—」
篠原 収 (広島女学院大学)

【九州・沖縄】

- 「ベンチャー企業のマネジメント戦略」
増田 幸一 (九州共立大学)
- 「沖縄におけるフリー・トレード・ゾーン構想の研究」
大城 智美 (沖縄女性研究者の会)
- 「能力主義と能力」
杉原 英夫 (九州共立大学)
- 「企業経営における「未来学」に関する一考察」
北原 康司 (佐賀女子短期大学)
- 「コミュニケーションリテラシーについての一考察」
松原 弘実 (ヒューマンデザイン研究所)
- 「情報機器利用による課題遂行の際の今日的指導について」
木原すみ子 (九州龍谷短期大学)
- 「情報化の進展と新しい企業形態」
光岡 延幸 (福岡女子短期大学)
- 「敬語習得におけるLL活用の一考察」
則松真由美 (香蘭女子短期大学)
- 「ビジネス実務の研究について」
坂本 一登 (福岡女子短期大学)

日本ビジネス実務学会セミナーについてのお知らせ

当初2000年9月6日に開催を予定しておりましたビジネス実務研修会は、3月に開催された常任理事会にて中止することが決まり、かわりに下記の二つのセミナーを開催することになりました。正式な案内は7月頃にご送付いたします。ご参加のほどよろしく願います。

〈ビジネス実務教育指導法セミナー〉
日程： 2000年12月16日(土)~17日(日) (予定)
会場： 未定

〈プレゼンテーション教育指導法セミナー〉
第1回目
日程： 2001年2月21日(土)~22日(日) (予定)
会場： 未定
第2回目
日程： 2001年2月23日(土)~24日(日) (予定)
会場： 未定
各セミナーの費用： 学会員¥40,000 (非会員¥50,000)
費用には2日間のテキスト代、昼食代が含まれます。宿泊費は含まれておりません。